地域実践研究成果の紹介

児童生徒理解に基づいた特別支援教育の推進
－多様な子供を認め合うことのできる共生・共育を目指して－
校内研修モデル

特徴

教員の児童生徒理解に基づく特別支援教育を推進することは大切なことです。本研究では、子供たちの多様性への理解を組織的に進め、教員同士で深め合うことを目指した「多様な子供を認め合うこれからの学校のための校内研修モデル」を開発しています。

活用していただきたい方

- 小中学校の通常の学級担任や特別支援教育コーディネーター、管理職
- 教育委員会の指導主事

研究成果の活用

教員間の「気づき」による協議

校内研修モデルでは、児童生徒の実態を情報共有から「実態把握や実践の新たな気付き」へつなげるため、実態把握や実践から捉えた「気付き」を以下のように確認できます。

児童生徒の様子を書き出し、困難さがある児童生徒への「気付き」を確認します

①「気付き」の確認（個人）

●困難さがある（かもしれない）子どもの様子

名前	様子（いつ、どこで、どうした）

※簡潔に記入

個人で確認した「気付き」をグループ内で伝え合い、情報共有します

②「気付き」の共有化（グループ）

記入した、子どもの実態を
グループの中で発表し、
「気付き」を共有する。

名前	様子（いつ、どこで、どうした）

【ポイント】
一人1分程度で記述した情報を伝える。
※「気付き」の事実のみを伝えて共有をする

共有された児童生徒の中から1名について情報共有シートを使用した協議を実施

③「気付き」の深化（グループ）

①グループで、情報共有する子どもを1人決める。

②全員でその子どもについて知っている情報を書き出す。

③グループで情報を共有する。
＋その中でさらに知りたい情報があれば、聞く。

よい行動
プラスの行動
等

子どもの困難さ、苦手さを感じた行動
マイナスの行動
等

共有したことを全体に発表し、他のグループの感想等から今後につなげます

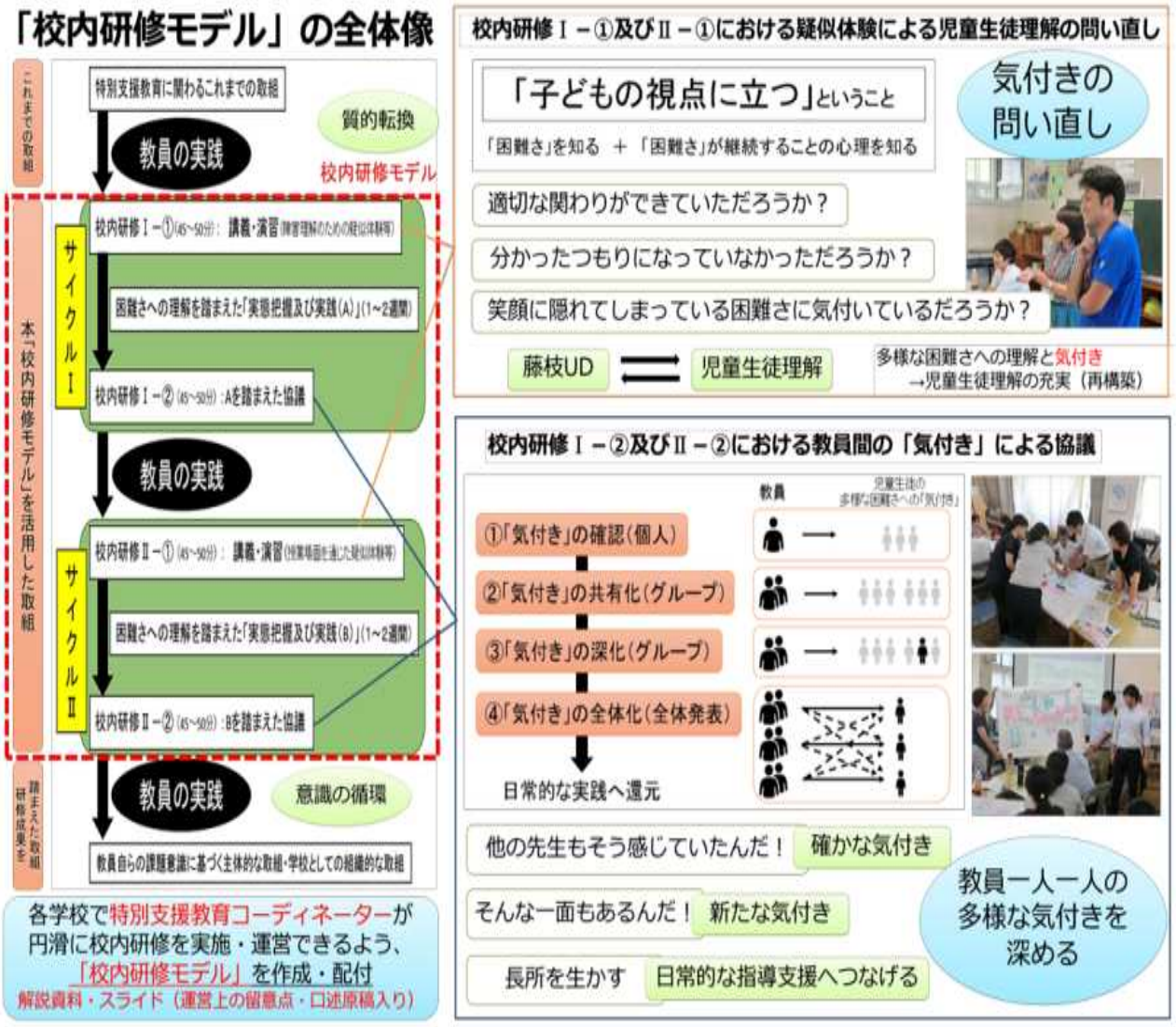
④「気付き」の全体化（全体発表）

【発表する先生】
・グループで話し合った内容を、共有しましょう。
→その子どもの情報について、グループで共有化した内容について要点を伝えてください。

【他のグループの先生】
・その子どもを、今後自分も支援するつもりで聴きましょう。
・自分が担当しているクラスにも似たような子どもがいないか？という意識をもって聴きましょう

研究の内容と主な成果

多様な子供を認め合うことのできる共生・共育の実現に向け、教員及び地域社会への児童生徒理解に基づく特別支援教育を推進していくことを目的としています。研究成果として、教員が児童生徒の多様性に気付き、その気付きを共有し、課題解決力を高める「多様な子どもを認め合うこれからの学校のための校内研修モデル」を開発しています。



インクルーシブ教育システム構築との関連性

7. 研修：（7 -1）園内・校内における専門性の向上のための取組
　　：（7 -2）園内・校内研修における研修の実施

*インクルーシブ教育システム構築の観点は、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容は報告書をご覧下さい

地域実践研究　インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究　研究成果報告書

（平成30年度～令和元年度）

P.107～174

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/specialized_research/b-337